

Book Review

2010年11月アーカイブ

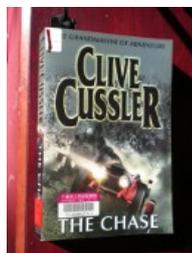
The Chase

tsuji (2010年11月28日 21:25) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

The Chase
Clive Cussler

盗みに入った銀行でいつも女・子供もろとも全員殺し、殺戮によって何が得られるのか。変装して街で見られたのでないとき、ただ目撃者を残したくないというのにはあり得ない。歯を磨くぐらいに簡単に、良心の呵責なしに。鳩を撃つものと同じ感受性で小さな子供を撃つ。

犯罪は、西はPlacerville(カリフォルニア州)
東は、Terlingua(テキサス州)
南は、Bisbee(アリゾナ州)
北は、Bonzeman(モンタナ州)の範囲で起こっている。



Isaac Bellが暗殺者に狙われたり、おとりを仕掛けたりしながら、強盗殺人犯を追いかけていく。それでも、強盗殺人を続ける犯人。

Miss Mantecaとは何者なのか？

捕まった後はどうしたのか。

Bell も実家は銀行業だが、
、、しエンパイアを築いたJacob Cromwell
は彼の銀行にこれ以上の、、お金は必要ない。

Cromwellの豪邸は最後にはどうなるのか。

Interpreter of Maladies

tsuji (2010年11月24日 22:28) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

Interpreter of Maladies
Jhumpa Lahiri

9つの短篇

A Temporary Matter

このテンポラリー・マターというのは
5日間にわたり8P.M.から1時間電気が止まるという
通知ということであり、そこからこの話は始まるが、
最後まで読んでみると33歳Shobaと
35歳にしてまだ学生のShukumarに起こる
この間のことという意味合いにも取れると思う。

2人は長く付き合っていて、
2人の子供は生まれた時には死んでしまっていた。
彼は、彼とShobaはお互いに避けるエキスパートになったことや、
長い間、彼女が目を見つめて笑ったり、または.....
.....を考えたりした。

Shobaが祖母の家で停電があった時、みんな何か言ったことを思いだし、
"Say something to each other in the dark."
"Like what? I don't know any jokes"
"No, no jokes." She thought for a minute. "How about telling each other
something we've never told before."

カテゴリ

月別 アーカイブ

[2011年1月 \(1\)](#)

[2010年12月 \(2\)](#)

[2010年11月 \(3\)](#)

ウェブページ

[このブログを購読](#)



検索

[検索](#)

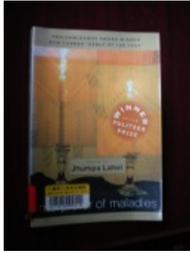
このアーカイブについて

このページには、2010年11月に書かれたブログ記事が新しい順に公開されています。

次のアーカイブは[2010年12月](#)です。

最近のコンテンツは[インデックスページ](#)で見られます。過去に書かれたものは[アーカイブのページ](#)で見られます。

こういう事を話し出すとどうなるのか、、、



Interpreter of Maladies

Mr. Kapasi はいわゆるツアーガイドをしている。
 Das 一家を案内している。
 Mr. Kapasi は Mrs. Das に惹かれるが彼女は全然興味を示さない。
 Mr. Das と話していて、
 他の仕事を金、土以外(ふつうは日曜日は休み)
 しているという、どこでと聞かれる。
 医者ではない。医者と仕事をしている。通訳として。
 Gujaratiの患者と医者(どこが悪いなどの)interpretingをしている
 という、Mrs. Das が「ロマンチック」と沈黙を破り言う。

最後に、風の中を舞って、(その舞っているのは)
 写真で心の中で永遠に記憶するだろう
 という終わり方が、とても印象的です。

The Third and Final Continent

この短編集の最後を飾るにふさわしい内容となっている。
 筆者は確か、イギリスで生まれほとんどをアメリカで育ったということで、
 移民というわけではないのだが、
 心境がよく現れていると思う。
 私が達成したことはとてもありふれ、私だけでないし、最初でもない。
 1マイルごと、食事ごと、知り合う人ごと、寝る部屋ごとに当惑する。
 私の想像を越える時がある。(中略あり)と結んでいる。

主人公は
 インド、イングランド、アメリカと渡る。

36歳で結婚が取り決められると同時期に
 MITの図書館で正社員の職を得る。

アメリカに渡る直前ぐらいから、渡ってからの
 その間の起こった事というか、話が書かれている。
 (最後の方に、息子が出てくるが)

, that there was ever a time that we were strangers

The Cider House Rules

tsuji (2010年11月20日 17:43) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

The Cider House Rules
 John Irving

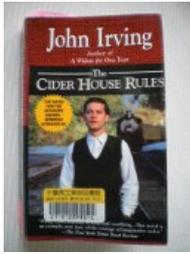
セント・クラウドは自分では、妊娠している子供を育てられない
 人が訪れ、間に合えば中絶し、そうでなければ生んで子供を
 置いていく孤児院。

孤児院に入る子には看護婦が名前を付けるのだけれど、
 MelonyはMelodyの打ち間違い。その間違いは幸運にも、この女の子
 はメロディアウスなところはなく、16歳ぐらいで豊富な胸と
 お尻のまるいところから、メロンを思わせるいる。

3度めの里親の所で、
 主人公のHomer Wellsは
 buggeryしようとして、逆にしようとしたかのように言われ
 この家を出て、孤児院に戻ってしまう。

2人とも、大きくなってしまい(大人に近くなって)
 もらってくれる所がなくなってきてしまうのだが、
 ホーマーは助産師ぐらいになり、後を継いで孤児院の
 (中絶の)医者になっていくのか、、、

そんな中、
 お互いに愛し合っている(本人たちがそうと気づくまえから
 Heart's Haven, Heart's Rockの人はみな愛し合っていると知っている)
 CandyとWally (Cider Houseを継ぐであろう)
 が中絶にCadillacに乗ってセント・クラウドに来るのだが、、、



このストーリーは、アメリカでも対立する難しい問題の1つである中絶を扱っているのだが、政治的な内容ではない。それについても主人公がどう思い、自分の道に行くのか、最後には自分の意志とは違うが戻るのかなどは、一つのポイントだと思う。

本の題にある「ルール」については、AngelはWallyの実の子という訳ではないのだが、Angelが好きになって、出て行って、その父親が、という様に、雇う側と労働者、黒人と白人などのCider House Rulesが重なった。全体的には、ストーリー展開というよりは、文章を読むことが楽しかった。Wallyにいつ本当のことを言うのか少しドキドキしながら読みましたが、、、。

Cider - Wikipedia によると

Cider is a fermented beverage made from apple juice

で、日本の三ツ矢サイダーと違ってアルコールみただけけれど、機会があれば飲んでみたいです。

「里親が決まった時の文句」

"Good night, you Princes of Maine-you Kings of New England!"

[メインページ](#) | [アーカイブ](#) | [2010年12月](#) »

Powered by [Movable Type](#)